【国語】
実践事例：小学校４年生　／実施機関：三重県教育委員会

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント
・言葉での指示を聞いて、記憶し、行動に移すことに困難さがあり、指示にそった活動に取り組むことが難しい。
・自分のイメージの言語化に困難さがあり、自分の考えや思いを言葉で表現したり文章に書き表したりすることが難しい
・文字を見ること、意識したところに手を動かすことに困難さがあり、正しい形の文字を書くことが難しい。

【指導例】
１．対象とした児童生徒の実態
（１）対象の障害
□自閉症　□情緒障害　■ＬＤ（学習障害）　■ＡＤＨＤ（注意欠陥/多動性障害）
□その他
（２）子供の困難さ
□見ること　■聞くこと　□話すこと　□読むこと　□書くこと　□動くこと
□コミュニケーションをすること　■気持ちを表現すること
□落ち着くこと・集中すること　□概念（時間、大きさ等）を理解すること
□学習（計算、推論等）すること　□その他

不注意があり、注視することや集中して聞くことが難しい。そのため、教員の指示を理解したり、学習活動に取り組んだりすることに時間がかかり、支援が必要となる。
自分の思いなどを頭の中で整理し、言語化することに困難さがあり、感覚から得られた情報や自分の意思をうまく周囲に伝えられない。

２．教科における学習上のつまずきを把握するための方策
（１）実態把握の時期
1 年生の 3 学期
（２）実態把握の方法（実施者・方法）
・心理検査（津市子ども支援課）
・視覚のアセスメント（通級による指導担当教員）
・読み書きスクリーニング検査（通級による指導担当教員）

３．指導内容
（１）教科における学習上のつまずきの内容
・ダ行とラ行の発音・書字の混同が見られる。
・言葉のまとまりをとらえて文章を読むことが難しい。

・ひらがなの形がとれない。また、漢字の線が抜け落ちたりその間違いに気づかなかったりする。

（２）つまずいている背景・原因

・音韻の認識が弱い。
・聴覚的な注意力が弱く、正しく聞き取れない。
・不注意があり、パターン化された動作の一部が抜けてしまう。

（３）（１）に対し実施した指導方法、工夫した点

（ⅰ）授業における全体指導、個への指導について

・指示を明確に示したり見通しをもたせたりするために、電子黒板やタイマー等の視覚支援を活用した。
・漢字を部首等の構成するパーツに分け、その組み合わせによって漢字を認識することで、定着を図った。

（ⅱ）個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

・読み書きのワークによる音韻・節の認識及び特殊音節の定着に取り組んだ。
・パズル等で空間認知力の向上に取り組んだ。
・聞き取りのワークシートを活用して、聴覚情報を記憶する課題に取り組んだ。

（４）（３）の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

・聞くことに意識が向き、内容を理解できるようになったことで、相手の意図をとらえて自分の行動に活かせるようになった。
・学習において分からないときに、「分わからない」と自分で伝えられるようになった。
・漢字をパーツに分けて認識することで、漢字の理解が進み、読みにも定着がみられた。

【算数】
実践事例：小学校５年生　／実施機関：三重県教育委員会

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント
・聞くことに課題があり、計算の手順や公式、図形の定義の理解が難しい。
・マス目に文字を入れることが難しく、筆算で位取りができない。
・空間をとらえたり、全体の形を見ながら細部に目を向けたりすることに困難さがあり、図形の特徴をとらえることが難しい。

【指導例】
１．対象とした児童生徒の実態
（１）対象の障害
□自閉症　□情緒障害　■ＬＤ（学習障害）　■ＡＤＨＤ（注意欠陥/多動性障害）
□その他
（２）子供の困難さ
■見ること　■聞くこと　□話すこと　□読むこと　■書くこと　□動くこと
□コミュニケーションをすること　□気持ちを表現すること
□落ち着くこと・集中すること　□概念（時間、大きさ等）を理解すること
□学習（計算、推論等）すること　□その他

衝動性により、集中を持続して話を聞くことに困難さがあり、話の途中で割り込んだり、不規則発言が見られたりする。
空間認知の弱さが見られ、全体を見ながら細部にも目を向けることに困難さがある。
目と手の協応に課題があり、文字の形がとりにくい。また、手先が不器用で定規や分度器等を使って測定したり、直線を引いたりすることにも困難さがある。

２．教科における学習上のつまずきを把握するための方策
（１）実態把握の時期
２年生
（２）実態把握の方法（実施者・方法）
・心理検査（県立子ども心身発達医療センター）
・読み書きスクリーニング検査（教科教育スーパーバイザー）

３．指導内容
（１）教科における学習上のつまずきの内容
・黒板に書かれていることをノートに正しく写すことが難しい。
・筆算の位取りがずれてしまい、正答を導き出すことができない。
・計算方法の説明や指示を聞いて、自分で再言語化することが難しい。
・課題が理解できない、正答が出せないことで学習意欲が下がり、授業中の姿勢や周囲

との関係にも課題がある。

（２）つまずいている背景・原因

・ADHD の特性に起因する不注意と衝動性のために、集中して聞くことに課題がある。

・目と手の協応に課題があるため、字の形が整わなかったりノートのマスに収まらなかったりする。

・書字の困難さから、自分の考えを的確に文字や文章で表現できない。

（３）（１）に対し実施した指導方法、工夫した点

（ⅰ）授業における全体指導、個への指導について

・ノートを拡大して電子黒板に投影したり、授業の流れやタイマーを表示して見通しを持たせたりするなど、視覚支援に取り組んだ。

・話すことや聞くことのルールや計算の手順などを教室に掲示し、常時振り返ることができるように配慮した。

（ⅱ）個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

・宿題の量の調整や、書字については厳密に評価しないなどの児童に合わせた指導を行った。

・パコンやタブレット端末の文書作成ソフトを活用し、自分の考えを文章にする練習に取り組んだ。

（４）（３）の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

・通常の学級での学習に対する困難さが軽減され、落ち着いて学習活動に参加することで、本人の特性である不注意や衝動性にも改善がみられた。

・成功体験を重ねることで学習意欲が向上し、積極的に授業に参加できるようになった。

・書字の困難さでつまずくことなく自分が考えていることを文章で表現できるようになった。また、自分の考えを文字で伝えることによって、他の児童から学習に取り組む姿勢を認められる機会が増え、他の児童との関係の改善が見られた。